

シャゼンソウ (車前草)

語源

オオバコ属 *Plantago* は、古ラテン語 *plantago* プランターゴ「オオバコ」から。この語はおそらく *planta* プランタ「足の裏、足跡」が語源。オオバコの大きな葉を足跡に例えたもの。語尾の *-ago* は、ラテン語 *ago* アゴー「行く、運ぶ」に由来するとも言われている。

種小名の *asiatica* は、「アジアの、アジア産の」の意。和名のオオバコ(大葉子)は、「葉が広くて大きい」ため。生薬名の車前草とは、牛車や馬車が通る道ばたに多いことから。



基原

Plantago asiatica Linne オオバコ

オオバコ科 多年生草本

日本薬局方でシャゼンソウとして規定されているのは、*Plantago asiatica* Linne オオバコ 1種のみであるが、民間薬としては以下のようなものもオオバコと同様に用いられる。

P. japonica Franch. et Sav. トウオオバコ：

本州、四国、九州の近いところに生える多年草。

唐オオバコと称しても日本産で、形状はオオバコと似て同属中最大の種、花茎はときに1mに達する。

P. depressa Willd. ムジナオオバコ：

帰化植物。中国、朝鮮半島、東シベリアの草地に生える多年草。

P. arenaria Walds et Kit. ホソバオオバコ：

南ヨーロッパからインドにかけて分布する多年草。

P. major L.：

中国からインドにかけて生える1年草。

P. ovata Forskal：

ヨーロッパ南部、北アフリカ、インドに生える。



薬用部分

花期の全草

産地

中国、韓国、日本

主な成分

イリドイド配糖体：アウクビン

フラボノイド：プランタギニン、ホモプランタギニンなど

その他：プランタマヨシド、β-シトステロール、ウルソール酸など

主な薬効

鎮咳、去痰、利尿

主な用途

利尿、鎮咳、去痰、止瀉、消炎作用の民間薬に用いる。

【咳止め、下痢止め、利尿、止血、強壮】

車前草一日量10～15gに水600mlを加え、約半量になるまで煎じて1日3回に分けて食間に服用したり、薄く煎じてお茶代わりにして用いる。咳止めには甘草を加えるとよい。

【風邪の咳止め、気管支炎の咳】

車前草10g、雪ノ下10g、南天実5～10g、甘草2gを加えて600～700mlの水で煎じて服用すると一層効果がある。

【利尿】

新鮮なオオバコ葉をしぼり、しぼり汁50mlに半量ほどの清酒を混ぜて空腹時に飲む。

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「日本薬草全書」「和漢薬の事典」「家庭の民間薬・漢方薬」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp